

平成 25 年度 事業報告

(平成 25 年 4 月 1 日～7 月 31 日)

(はじめに)

財団法人大阪対がん協会は平成 25 年 8 月 1 日付で公益財団法人へ移行した。このため 25 年度は 4 月から 7 月までの 4 カ月が財団法人の最終年度、8 月から 26 年 3 月までの 8 カ月が公益財団法人の初年度となる。

財団法人の最終年度 4 カ月間には主として以下のような取り組みを進めた。

《公益目的事業》

がんの知識・予防等の普及啓発(公 1)

【講演会・イベントの開催】

☆リボンの騎士ナイト

音楽ライブとがんに関するトークを組み合わせたイベント「リボンの騎士ナイト 2013～貴方ががんから守りたい～」を 7 月 7 日、大阪市北区堂島のエルセラホールで開催、約 260 人が来場した。女性アナウンサーコンビのロンマリ・プロジェクトと大阪対がん協会が 2011 年度、2012 年度と共催。今回は実行委員会主催方式をとり、エッセイストの藤本統紀子氏が委員長を務め、協会は事務局としてチケット販売の窓口を担った。第 1 部はフォークシンガーのばんばひろふみさんが懐かしい歌とトークで会場を盛り上げ、第 2 部ではがん専門医の奥野清隆氏(近畿大学)と高島勉氏(大阪市立大学)が大腸がんと乳がんの手術経験者の患者 2 人と語り合った。前売り券を 3 千円、当日券を 3500 円で販売、1 枚につき 300 円が協会に寄付される。

☆成人病公開講座

第 60 回の講座を 6 月 18 日、大阪府立成人病センター 6 階講堂で開いた。同センター、大阪成人病予防協会とともに主催し、定員 140 人の会場はほぼ満席となった。テーマは「最新の肝がん治療」で、いずれも成人病センターの医師 3 人(片山和宏、中澤哲郎、左近賢人)が講師を務めた。同講座は毎回テーマを変え、年間に 4 回ほど開催している。

【情報発信】

☆啓発小冊子の配布

がんの知識の普及啓発を目的として小冊子「進め！がん防衛隊」の製作・発行を平成 24 年度事業で取り組んだが、25 年度は冊子の配布を進めている。小冊子は A5 判、40 ページ、フルカラーで、がんの基礎的な知識や予防、がん検診の案内などを図表、イラストを盛り込んで分かりやすく解説している。編集著作は大阪府立成人病センターがん予防情報センターが担当、大阪のがんに関するデータや府内のがん診療拠点病院一覧を掲載して地域性を打ち出した。25 年 5 月までに 1 万部を発行、拠点病院 60 カ所のほか、協会主催や後援イベントの参加者にも配り、7 月末までに配布部数は 6 千部以上に上っている。

【患者支援・検診奨励】

☆患者連絡会

がん患者支援の取り組みとして 24 年度に始めた「大阪がん患者・家族連絡会」の事務局の役割を 25 年度も継続して務めている。同連絡会は、府内のがん患者や家族、支援者ら二十数団体で組織し、大阪府のがん対策に患者サイドからの要望や提案を出すため、随時会合を開いている。協会は、連絡会世話人からの依頼を受け、会合の日程のメール送信や会場の確保など連絡役を果たしている。大阪府から連絡会へのお知らせも随時メールで送信している。

☆乳がん検診無料券プレゼント

日本対がん協会が発行しているマンモグラフィ検診無料クーポン券を活用し、乳がん検診の受診率向上に貢献している。25 年度はクーポン券 150 枚の提供を受けた。このうち 100 枚を希望者にプレゼントする企画に取り組んだ。5 月 15 日から 31 日までにはがきで応募を募り、410 人から応募があった。6 月 6 日に協会で抽選を行い、当選者 100 人にクーポン券を贈った。残り 50 枚については秋に同様のプレゼント企画に取り組む方針。

学術研究への助成(公 2)

【がん研究助成奨励金】

25 年度で 54 回目を数える協会の目玉事業。事業計画では、25 年度も過去 2 年と同様に、「基礎」「臨床及び疫学」「看護等」の 3 部門で計 15 人の受賞者を選び、各 30 万円を贈呈する。事業の実施は下半期となる。

《会員向け事業》

賛助会員へのサービス提供

【情報の提供】

☆協会報

5 月に協会報を発行した。内容は、平成 24 年度がん研究助成奨励金を贈呈・受賞者一覧(1～2 ページ)／講演会・イベント情報、「進め！がん防衛隊」を発行(3 ページ)／会員へのお願い、理事会・評議員会(4 ページ)。計 1800 部印刷し、会員を中心に配布した。

☆メールマガジン

7 月に第 10 号となるメールマガジンを配信した。「役員から」では、「リボンの騎士ナイト 2013 を振り返って」とのテーマで奥野清隆評議員が執筆。トピックスは「協会の公益財団移行、委員会が『認定』」リボンの騎士ナイト 約 260 人が来場」。メールアドレスを登録した会員など 184 人(24 年度末現在)にサービスを提供した。

【がん検診の案内・援助】

☆春のがん検診

春のがん検診を会員に案内、受診の勧奨に努めた。大阪がん循環器病予防センターで胃、大腸、肺、乳房、子宮の5部位について4月から5月末までの2カ月間実施された。

※受診者数、受診結果など詳細は25年度末の事業報告で紹介する。

☆がん検診サービス券

賛助会員へのサービスとして25年度も全会員に「がん検診サービス券」(千円分)を配布した。検診施設でがん検診を受診し、千円以上の自己負担があったことを証明する領収書をサービス券とともに持参かお送りいただくことで現金千円か、千円分のクオカードと引き換える。サービス券の利用により、がん検診受診率の向上に寄与する狙いもある。同サービス券の配布は23年度、24年度に続いて3年目。

《協会の運営》

決算および寄付の状況

☆収支は623万円の黒字

4月から7月までの4カ月間で、経常収益(収入)は1024万円、経常費用(支出)は401万円となり、経常増減額は623万円の黒字となった。

収入の内訳とみると、一般寄付が634万円、賛助会員からの会費収入が389万円。一般寄付のうち520万円が遺贈の1件で、全体の82%を占めた。

☆経費の予算消化率は21%

4カ月の経常収益と経常費用を25年度の当初予算額(いずれも1920万円)と比べると、収益が53%に上った一方で、費用は21%だった。年間の3分の1が過ぎた時点で、予算消化が年間の5分の1にとどまっている理由は、研究助成など協会の事業が主に下半期に偏っているためである。

公益財団法人への移行

☆公益認定に至る経過

協会は公益財団法人への移行をめざして平成24年9月5日に大阪府へ移行認定申請書を提出した(電子申請)。その後は、申請内容について大阪府でチェックされ、担当課(健康づくり課)を通して質問や修正指導を受けた。さらに大阪府公益認定等委員会による審査は24年度中に2回(2月15日、3月22日)あったが、いずれも継続審査の扱いとなり25年度に持ち越された。今年度は5月17日の同委員会で審査されたが三たび継続となり、さらに6月28日の委員会で審査された結果、「認定基準に適合」との判断が下された。これを受け、松井一郎知事名で7月23日付で移行認定書が交付された。